

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

# CASBEE 新築[簡易版]

# 評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年追加版Ver.2 (BP/BE対応) 使用評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010bpi&bei(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	神奈川工科大学(仮称)看護医療棟	階数	地上5F
建設地	厚木市下荻野中四ツ谷1030番地1他8筆	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	500人
気候区分		年間使用時間	2,500時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年3月 予定	評価の実施日	2014年5月14日
敷地面積	1,870 m <sup>2</sup>	作成者	鹿島建設株式会社
建築面積	1,270 m <sup>2</sup>	確認日	2014年5月14日
延床面積	5,943 m <sup>2</sup>	確認者	鹿島建設株式会社



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5**

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算  
参照値: 100%  
建築物の取組み: 82%  
上記+ 以外の: 81%  
上記+: 81%

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 3.2**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.0

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.4

**LR のスコア = 3.5**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>メンテナンス性を重視した設備計画を行って建物の耐用性を高くしている。</li> <li>バリアフリーに配慮した設計を行っている。</li> </ul>		0
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>室内換気を確認し、F の材料を使用して空気質環境の向上を図っている。</li> </ul>	Q3 室外環境 (敷地内) <ul style="list-style-type: none"> <li>周辺の建物にあわせるような外観として、調和を図っている。</li> <li>室外機は全て屋上に配置して温熱環境の向上を図っている。</li> </ul>
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>高効率の空調設備、換気設備、照明設備を採用し、太陽光発電を利用することでエネルギーの低減を図っている。</li> <li>太陽光発電を採用して自然エネルギー利用を行っている。</li> </ul>	LR3 敷地外環境 <ul style="list-style-type: none"> <li>外部照明の設置は無く、内部からの光の漏れも最小限として、光害の抑制に配慮している。</li> </ul>
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> <li>十分な階高を確保している。</li> <li>耐用年数の長い配管材料を使用して部材の長寿命化を確保している。</li> </ul>	
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> <li>節水型の衛生器具の採用、再利用可能な材料の選定を行っている。</li> </ul>	

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される